

## 第5章 環境について自ら考え行動する人づくり

## 第1節 学校における環境教育の促進

## 1 環境教育の実施体制の整備

## (1) 里山里海湖学校教育プログラム集

## 【自然環境課】

里山里海湖について、小中学校教員が児童・生徒を指導するためのプログラムを、現場の先生方の意見を踏まえながら作成しました。

表5-1-1 これまでに作成したプログラム

	プログラム名
26年度	三方五湖周辺体験プログラム
27年度	北潟湖周辺体験プログラム 六呂師高原周辺体験プログラム
28年度	丹南地区周辺体験プログラム
30年度	三方五湖周辺体験プログラム改訂 (福井県年縞博物館を追加 他)
元年度	北潟湖周辺体験プログラム改訂 六呂師高原周辺体験プログラム改訂
2年度	丹南地区周辺体験プログラム改訂
3年度	三方五湖周辺体験プログラム改訂
4年度	北潟湖周辺体験プログラム改訂 六呂師高原周辺体験プログラム改訂

平成26年度から作成している体験プログラムは、身近な里山里海湖を実際に体験することにより保全の意識を高め、自主的な活動を促すことを目的としており、すべての小中学校へ配布しました。これにより、小中学校の教員が、「里山里海湖とは何か」、「里山里海湖でどんな活動ができるのか」を知ることができる手引書としての活用と「里山里海湖の恵み」を児童・生徒に実体験させることができるものと期待しています。

さらに、それぞれの地域の特性を活かした体験活動を実施することで、より福井の里山里海湖の魅力を実感し、保全・再生の意識を向上させていけるものと考えています。

今後とも、系統立てた環境教育を推進できるよう、学校の年間指導計画に位置付けていけるよう努めていきます。

表5-1-2 令和3年度にプログラムを体験した学校数・人数

	学校・団体数	児童・生徒数
三方五湖	27校・団体	869名
北潟湖	4校・団体	113名
六呂師	19校・団体	1,012名
丹南	336校・団体	13,395名
合計	386校・団体	15,389名



学校教育プログラム「どんぐりアート」

## (2) 環境・エネルギー教育支援事業

## 【義務教育課・高校教育課】

県内の小・中・高等学校を対象に、地域の特色に応じた実践を通して、児童・生徒の理解を深め、自ら考え、判断し、よりよく環境・エネルギー問題を解決する力を育成することをねらいとした「環境・エネルギー教育支援事業」を推進しています。

小学校では、発電や蓄電について学習する教材の活用やエネルギー教育関連施設の見学を通して、環境・エネルギー教育を進めています。

中学校では、ボルタ・ダニエル電池実験器や発電実験器等を購入し、実験や観察を通して放射線の性質や様々な発電方法について正しい知識と科学的な理解を深める授業を充実させています。

高等学校では、クルックス管を利用して放射線の特性を学んだり、発電の原理やクリーンエネルギーについて探究的に学習したりするなど、発展的な環境・エネルギー教育を進めています。さらに、専門家による講演会や施設見学会等を通してエネルギー問題や放射線に対する理解を深める取組みを実践しています。

今後も、各校の取組みを県内全体に広め、環境・エネルギー教育の一層の普及に努めていきます。

## ◆第2部 分野別施策の実施状況

表 5-1-3 環境・エネルギー教育支援事業取組状況

	2年度	3年度	4年度
環境・エネルギー教育に関連する施設等の見学	10校	12校	16校
講師による講演や意見交換会での指導および助言	3校	3校	2校
エネルギー教育に関する資材・機材の活用方法の研究	81校	64校	98校



環境指導者向けの研修の様子

### (3) 福井県気候変動教育プログラム

#### 【環境政策課】

地域で地球温暖化防止や気候変動の適応に向けた活動を企画・実施できる人材を育成するため、ドイツの気候変動教育プログラムを参考に開発した福井県独自の気候変動教育プログラムの普及を進めています。

プログラムは、基礎編「福井県版ミステリーワークショップ」、応用編「課題解決ワークショップ」の2つで構成されています。

基礎編「福井県版ミステリーワークショップ」では、24枚1組の「福井県版ミステリーカード」をグループごとに関連付ける作業を通して、気候変動によりどのような現象が発生しているかを把握し、気候変動には様々な事柄が複雑に絡み合っていることを学びます。

熱中症で緊急搬送される人は年々増加傾向にあり、高齢者が特に影響を受けやすいとされている。今後、猛暑日の増加にともなう危険が増大すると予想されている。

年齢区分別、熱中症搬送者比率 (2018年7月～9月)

65歳以上: 48.1%  
55～64歳: 37.0%  
45～54歳: 14.0%  
15～44歳: 1.0%

※ 出典: 消防庁「熱中症に関する調査報告書(2018年)」

福井ブランド「福井梅」は、種が小さくて果肉が厚く高い評価を得ている。しかし近年、農家の梅林さんは、「福井梅」に日焼け被害等が発生して悩んでいる。

福井梅 (内子)

日焼け梅

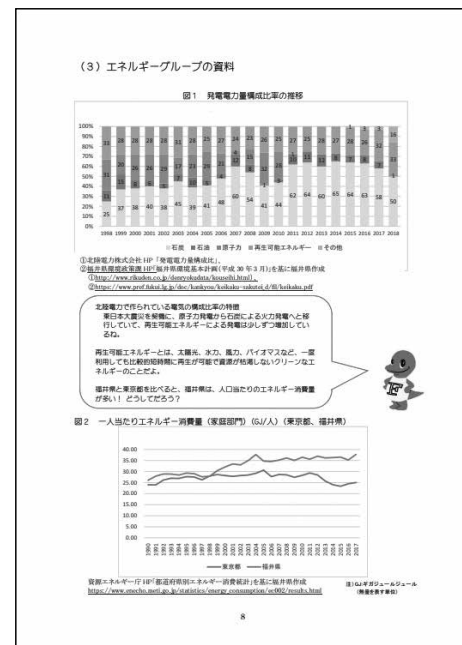
※ 出典: 「ふるさと」から見る地域活性化(2022年3月、福井県環境政策課「福井県農業振興計画(2022～2026年)」の掲載より作成

「福井県版ミステリーカード」の例

応用編「課題解決ワークショップ」では、本県の交通・エネルギー・農林水産業の統計データから県の抱える課題をグループで分析し、将来の理想像を考え、これを実現するために必要な解決策をジグソー法の手法を使って考えます。

令和4年度は、学校教育や社会教育でのプログラムの普及と活用を図るため、中学校・高校の教員を対象としたプログラム体験会、環境指導者向けの講師養成を目的とした研修を実施しました。

令和5年度は、学校教育でのさらなる普及を図るため、教員に対してプログラムの宣伝を行っていく予定です。



統計データ集の一例  
(福井県のエネルギーに関する統計データ)

分野別施策の実施状況

環境について自ら考え行動する人づくり

## 第2節 地域や家庭における環境教育や環境活動の促進

### 1 地域や家庭における環境教育や環境活動の促進【環境政策課】

#### (1) 環境アドバイザー制度\*<sup>1</sup>

「美しい福井の環境を県民の手で守り育てる」ことを目的に、平成6年6月から、環境アドバイザー制度を導入しています。

この制度は、地域や学校、公民館、企業などが実施する環境問題に関する学習会等へ環境アドバイザーとして講師を派遣するもので、現在107名（令和5年1月末現在）の環境に関する専門家が登録されています。

学習会等の内容は、環境問題やリサイクル、省エネ、自然保護などの講座や山や海での自然体験などがあり、皆さんに楽しく環境について学んでいただいています。

この制度により、県民の環境問題への関心や環境保全に対する取組みの意識が高まっています。

表 5-2-1 環境アドバイザー派遣実績

	令和3年度	令和4年度
派遣人数	70人	98人
受講者数	1,662人	2,127人

(注) 令和4年度は令和5年1月末時点



環境アドバイザーによる学習会

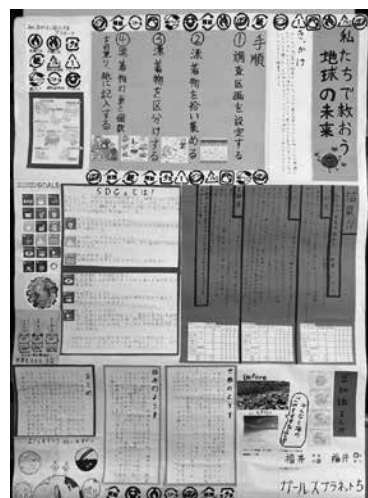
#### (2) こどもエコクラブの応援

「こどもエコクラブ」とは、環境省が、子どもたちの主体的な環境学習や実践活動を支援している環境活動のクラブです。1人以上の幼児から高校生までの子どもと、活動を支える1人以上の大人(サポーター)でクラブを登録することができ、学校の生徒と担任の先生、家族単位、町内の子ども会など、気軽にクラブを作ることができます。令和4年12月末現在で、7クラブ582人の子どもが登録しており、様々な活動を行っています。

また、全国事務局では、こどもエコクラブを対象とした壁新聞コンクールを毎年行っています。令和3年度は、福井市鷹巣小学校6年生が作成した「私たちが救おう地球の未来」が県代表として選出されました。

なお、こどもエコクラブの本県事務局を、環境ふくい推進協議会（後述）が担っており、各クラブの活動に対し、必要な物品の調達や上記コンクールの支援など、こどもエコクラブ活動にかかる助成を行っています。

令和4年度は、福井市内の海岸で漂着物調査を実施したクラブに対し、調査に必要な物品の調達について支援を行いました。



鷹巣小学校6年生が作成した壁新聞（令和3年度）



助成を行った「こどもエコクラブ」の活動  
(福井市内の海岸での漂着物調査)

\*<sup>1</sup>環境アドバイザー制度：環境保全についての有識者や環境保全活動の実践者を「環境アドバイザー」に登録し、公民館、各種団体や学校等が主催する環境問題に関する学習会、講演会に講師として紹介、派遣する制度です。

## ◆第2部 分野別施策の実施状況

### (3) 環境美化運動の促進

#### ① クリーンアップふくい大作戦【環境政策課】

地域の環境保全に関する県民意識の啓発を図ることを目的として、平成4年度から、県内一斉に住民が主体となって美化活動を行う「クリーンアップふくい大作戦」を実施しており、平成17年度からは、季節ごとに年4回の統一行動期間を設け、市町や自治体などが一体となって地域ぐるみの美化活動を実施しています。

これらの取り組みのほか、令和4年度は、海ごみの発生防止をテーマに、九頭竜川の上流域から下流域ならびに県内の海岸において、住民・企業・団体などが清掃を行う「ふくい海ごみゼロチャレンジ2022」を実施しました。

(詳細については、特集「海岸漂着ごみ削減にむけて」をご覧ください。)



R4 ふくい海ごみゼロチャレンジ2022  
(勝山市勝山橋・恐竜橋周辺)

#### ② 自然公園の美化【自然環境課】

自然公園美化思想の一層の普及を図るため、環境省では8月の第1日曜日を「自然公園クリーンデー」として位置付け、全国の自然公園を対象とした大規模な美化清掃活動を実施しています。

実施にあたっては、関係市町その他の団体との連携のもと、地域の一斉清掃などを行っています。

#### ③ 河川環境美化、河川愛護月間【河川課】

河川環境美化については、地域住民等による活動の広報等を行う「川守」推進事業を展開するとともに、地域住民団体等が行う草刈活動への補助を行う「地域をつなぐ河川環境づくり推進事業」により良

質な河川環境の創出に努めています。

また、毎年7月の河川愛護月間には、県庁ホールにて河川愛護のパネル展を実施し、河川愛護に関する意識の啓発を行っています。

### (4) 環境教育・学習の場

県の自然保護センターや試験研究機関では、環境に関する展示や情報の提供、自然観察会等の学習機会の提供を行っています。

表5-2-2 県の主な環境教育・学習施設

施設名	概要
自然保護センター (大野市南六呂師)	・県内の自然を紹介する展示 ・プラネタリウム、天体の観察施設 ・自然観察会等の実施
海浜自然センター (若狭町世久見)	・ふれあい水槽、若狭の海湖(うみ)などを紹介する展示 ・自然体験講座の開催
里山里海湖研究所 自然観察棟 (若狭町鳥浜)	・野鳥やヒシ等の自然観察ガイド ・簡単な工作体験や里山里海湖に関する相談受付
年縞博物館 (若狭町鳥浜)	・水月湖年縞の展示
衛生環境研究センター (福井市原目町)	・環境情報コーナーでの環境関連図書、ビデオ等の資料の提供 ・見学者の受入れ ・環境科学体験教室や夏休み衛生環境教室の実施
総合グリーンセンター (坂井市丸岡町楽間)	・緑化推進のための樹木や花の見本園 ・緑や木とふれあい、遊び学べる施設 ・緑と花に関する講座の開催や相談受付
内水面総合センター (福井市中ノ郷町)	・河川や淡水魚に関することなどの展示

(5) 若手環境教育リーダー育成事業【環境政策課】

県では、次世代の環境教育を担うリーダーの育成をねらいとした「若手環境教育リーダー育成事業」を実施しています。これは、県内の大学生、短大生等で作る団体が、小学生向けの自然体験活動や省エネ活動などの環境教育に関する体験プログラムを企画・実施するもので、令和4年度は、3つの団体、29名の学生が参加しました。

コロナ禍でプログラム実施が危惧されましたが、どの団体も感染症対策を行いながら、夏休みから秋にかけてプログラムを実施しました。

各団体は、プログラムを実践して得た成果や課題を1月の報告会で発表しました。

今後も、一人でも多くの若者が環境に関心を持てるように努めていきます。



体験プログラムの様子（仁愛大学 西出研）

分野別施策の実施状況

表 5-2-3 採択グループ一覧（令和4年度）

団体名	活動内容
光エコキャラバン隊	・環境に配慮した素材を用いた「光るしおり、光るスライム等」の作成（エコな技術や工夫を紹介し、環境問題について考える）
Play-Garden Yubo	・雑木林や公園でのプレーパーク（子どもの自然の素材を生かした自由な遊びを学生がサポート）
仁愛大学 西出研	・自然豊かな里山でのフィールドワーク（生き物観察など）と学習発表 ・人とコウノトリ、田んぼの生き物の関係を学ぶ学習会

(6) 「せせらぎ定点観測」事業

県内の小学生に身近な自然環境、特に河川に対する興味関心を高めてもらい、自然環境の保全を目指すことを目的として、地域の河川や用水路で水質や水生生物、景観などを調査し、河川環境の変化を確認する「せせらぎ定点観測」事業を行っています。

令和4年度は、県内の環境保全団体と協力し、7月に県内3か所の河川で調査活動を実施しました。

他の地区でも実施を予定していましたが、天候不順や8月上旬に起きた豪雨の影響で、水辺の生き物が生息していた土壌の流出や長期間続く濁水等で調査が行えない状況を踏まえ、実施を見合わせました。

表 5-2-4 「せせらぎ定点観測」事業実施河川

地区	実施河川	実施日	参加人数
坂井	竹田川	7月26日	10名
鯖丹	天王川	7月27日	10名
南越	足羽川	中止	—
若狭	南川	7月30日	7名
二州	木の芽川支流	中止	—
福井1	足羽川	中止	—
福井2	羽生川	中止	—
奥越	浄土寺川	中止	—



せせらぎ定点観測の様子（若狭地区、南川）

「せせらぎ定点観測」実施協力団体

- ・一般社団法人 環境文化研究所
- ・NPO法人 森林楽校・森んこ
- ・NPO法人 中池見ねっと
- ・ノーム自然環境教育事務所

環境について自ら考え行動する人づくり